

氏名（ A 子 ）

実施日： 中2 7月

参加者名： 担任、保護者（母親）、適応教室指導員

○担任、□保護者(母親)、 適応教室指導員、 3者

	学習面	心理・社会面 (人間関係、 性格・特徴)	進路面 (得意なこと、趣味、将来 の夢、進路希望)	健康面 言語・運動面	家庭生活	
現在の状況	いいところ 自学自習に取り組むことが多かった。 □社会や漢字の練習を好んでする。	いいところ 友だちに対しての思いやりがある。 集団活動(スポーツ)のとき、休憩時間でも練習をする。また、後片づけもすすんでいます。 目上の人や友達などに対して、丁寧な言葉遣いができる。	いいところ ○高校進学を希望している。 □サイクリングが好き。 パソコンに興味を持つようになった。 バドミントンが得意。	いいところ 野球、テニス、卓球が上手になってきた。	いいところ □姉と仲がいい。 □手伝いをするようになった。 □父親の仕事について、父親本人と話した。	
	気になるところ 何をどう勉強していいかわからない、と思っている。	気になるところ ○人と接するときの緊張感が高い。 初めてする活動に対して、不安が大きい。	気になるところ	気になるところ 朝、学校に寄ってきたとき、体調が悪いと訴えることがあった。 細かな作業が苦手なところがある。	気になるところ □自分のことをすすんで話そうとしない。	
今まで行った、あるいは今行っている支援とその結果	朝、学校へ寄ってきたことを認めほめる。 ○電子メールで学校行事の連絡や学校の様子等を伝えた。 活動での様子や実習の作品の写真を掲示する。	適応教室での活動や家庭での様子で、そのときのよかったことやできたことの情報交換を密にする。また、それらのことを具体的に言葉でA子に伝え、取組や作品等を認めほめる。 1対1での会話。 否定的なメッセージを与えない。	パソコンでの文書作成の手伝いを頼んだ。また、調べたいことをインターネットで検索させた。 活動での様子や実習の作品の写真を掲示する。	情報交換を密にする。(特に、保護者と適応教室) 新しいことに挑戦するときは、事前の説明や練習を行う。 □自転車で適応教室に通うことを勧める。	□家族で外出する機会をつくる。	
考慮する事項		「こうした方がいいよ」というよりも、「こういう方法もあるよ」と選択肢を与え、本人の自己決定を促す。		天候に関係なく上着を着ていたが、脱いで活動できるようになってきた。		
支援方針	この時点での目標と方針	いろいろな活動での体験を通して、自分に対する自信を持つことができるようになる				
支援案	支援として何を行うか	適応教室や家庭で取り組んでいることを認める。 学習課題(プリントやテスト等)や学習方法についての援助の仕方や評価について、学校との連携を図れるのではないか。 パソコン用学習ソフト、数学・英語の教材の整備。 活動での様子や実習の作品の写真を掲示する。	A子のできたことを具体的に認めほめる。 不安な気持ちを話すときは、その気持ちを受けとめ、本人のいいところやできているところ、今のペースでいいこと等の肯定的なメッセージを伝える。 否定的なメッセージを与えない。	進路については、本人の気持ちを尊重する。 進路関係の日程を把握し、子どもの状況に応じて伝える。(適応教室では、A子に進路面についての話をするかどうかは、十分検討してから行う)。 進路情報コーナーの設置(高校のパンフレット、進路関連の本など)。	情報交換を密にする。(特に、進路面では担任と保護者) 新しいことに挑戦するときは、事前の説明や練習を行う。	□家族で外出する機会をつくる。
	誰が行うか	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	担任、保護者、適応教室	保護者
	いつからいつまで行うか	当面	当面	当面	当面	当面
	支援のために必要な連携	3者	3者	3者	3者	3者